

# 日本行動計量学会趣意書

## 日本行動計量学会

20世紀後半の世界の学界は、各専門領域の細分化が一層進行すると共に、各専門領域の方法論が多岐に発展している。このため一方において、細分化された専門領域相互の間の距離はますます増大し、他方において、新しい創造的な方法論が自己の専門領域において十分に理解され支持されない、という状況を生んでいる。

しかしながら、われわれは、人間の行動現象に計量的にアプローチするという方法論において、共通の関心をもつ研究者が、自然・人文・社会の諸科学に亘って多数存在することを知っている。現に、計量心理学グループを中心として1969年から毎年開催された「行動計量学シンポジウム」においては、法律・政治・経済・社会・心理・教育・統計・工学・医学・生態学などの諸領域から、百編を超える研究発表が行われてきた。

そこでわれわれは、専門領域の如何にとらわれず、人間の広義の行動現象に関して、現象の本質を把握し、これを目的に即してフォーミュレートし、実験・調査を行ない、測定し、解析し、情報をとり出す、という一連の過程に添って方法論を開発することに関心の中心を据えて、各専門領域における研究を促進し、研究者の領域相互間の交流を図ることを目的とした、新しい学会を設立することに決心した。

相異なった専門領域の研究者が、学会という場面で方法論に関し意見を交換し合うことの意義は、今更いうまでもない。自己とは異なる領域の方法から新しい刺激を受け、自己の領域を外部の眼で眺めることは、それまでの固定観念から抜け出す絶好の機会となるであろう。また、新しい共同研究グループや、新しい共同研究企画を促進することになる。したがって、われわれは、この学会に加わる人々の専門領域の範囲を厳密に制限する必要はないと考える。

他方、人間の行動現象に関する計量的方法がもつ意義に関しては、既成の人文・社会科学における認識は、各専門領域において事情に差異があるとはいえ、必ずしも充分であるとはいえないし、またそのとった計量的方法は、従来必ずしも十分に評価されなかった。このことは、われわれの研究努力の不足に原因すると考え、この反省の一つとして新しい学会を設立するのである。

本学会は今、既存の組織や人間関係にとらわれず、新しく同学の人々によって設立されようとしている。最広義における人間の行動現象に関する計量的研究とその方法に関心をもつ人々に告げる。こぞって本学会の設立に参加せられよ。